



令和2年度

横浜市立生麦小学校

学校だより

横浜市鶴見区生麦4-15-1 学校長 沼田 留美子
<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/namamugi/>



9月(長月)

生麦の夏景色

校長 沼田 留美子

夏休みに入るのを待っていたかのように、梅雨が明け、夏らしい暑さが続きました。畑には、それぞれの学年等で植えた野菜がぐんぐんと伸び、秋の収穫を待ち遠しく感じます。通用門横の池の掃除もしました。昨年お祭りの時にいただいた金魚が成長し、すいすい泳いでいるのが見えます。ささやかな風景からも、夏を感じることができました。

長い間子どもたちを迎えてくれていた正門が、老朽化で腐食し危険なため、新しくスライド式のものに変わります。7月31日の最終日には、門のところでクラス写真を撮ったり、「今までありがとうって言わなくちゃ！」と声をかけたりする姿が見られました。生麦小学校の大事な宝の花崗岩の門柱や金次郎さん、石碑は残ります。正門がかわっても、生麦小学校の伝統は引き継がれていきます。正門の完成は9月の半ばごろになります。

毎朝、正門で「おはようございます」とあいさつを続けています。子どもたちが登校し、人通りが少なくなると、どこからともなく「ちゅん、ちゅん」と鳴き声が聞こえてきました。鳥が近くにいるのかと探しても姿が見えません。さらに耳を澄ませてみると正面の電柱の上の箱の中から聞こえてくるようです。じっと見ているとある時、隙間から小鳥が飛び出してきました。ズメです。ズメは何羽かいて、穴を出入りしていました。どうやらここに巣があるようです。一回り大きいズメは親ズメでしょうか。小ぶりのズメはまだ飛ぶのに慣れていないのか、近場の電線を行ったり来たりしています。ズメは、隙間さえあれば、家の軒下でも、今回の電線の箱でも、繰り返し卵を産んで、近くにいる仲間のもとへ旅立っていきます。ズメは環境のバロメーターであり、ズメがいるまちは環境もよいといわれているそうです。生麦のまちの素敵などころを改めて発見できました。

昨今、世界規模で未曾有の出来事が続いています。今まで経験したことがなかった、多くの課題を解決していくために、国連では「持続可能な開発目標(SDGs)」を採択しました。17ある目標の中の「15 陸の豊かさを守ろう」では、生物の多様性を守ることや陸上の生態系の保護や回復、持続可能な利用の促進などが記されています。目標の達成を目指す2030年の社会の主役は、子どもたちです。みんなで知恵を絞り、力を合わせ、この素敵な環境を、まちを大切にできる子どもを育てていきたいと感じました。

すでに暦は秋。9月は時勢を見ながら皆様に学校へお越しいただける機会を設けてまいります。残暑も厳しい頃です。引き続き地域、保護者の皆様のご理解、ご協力を賜りますとともに、ご自愛いただきますよう、どうぞよろしく願いいたします。